令和７年度　波佐見町総合教育会議　会議録

日時　令和７年１２月２５日（木）
午前９時～
場所　波佐見町役場　第３会議室

出席者：前川町長、福田総務課長
森田教育長、山下委員、馬場委員
松尾委員、冨木委員
林田次長、渡邊指導主事

１．開会

福田総務課長　定刻となりましたので、ただいまより波佐見町総合教育会議を開会いたします。本日の司会進行を務めます、総務課長の福田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
今後は着座にて進行させていただきます。開会に際しまして、波佐見町長 前川芳徳よりご挨拶を申し上げます。

前川町長　皆様、改めておはようございます。本日、波佐見町町総合教育会議を開催いたしましたところ、教育委員の皆様には、ご多忙の中、また年末のお忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。日頃より本町の教育行政の振興にご尽力いただいておりますこと、また、町民の代表として、教育委員会の運営にご協力をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。
この総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、全国すべての県や市町村に設置されているものでございます。町長と教育長、教育委員が一堂に会し、本町の教育方針と現状の課題を認識し、共通理解のもとに教育行政を進めるために設置されております。
本町におきましては、これまで教育長や教育委員の皆様とは、日頃から顔を合わせ、意見交換を行っておりますが、本日は新年度の予算編成が進んでいるところでございますので、現状を踏まえ、次年度に向け、改めて本町の教育について意見交換ができればと考えております。
さて、教育環境の変化につきましては、私から申し上げるまでもなく、少子化の進展、多様化する児童生徒への対応、教育施設の維持管理、学力向上など、多岐にわたる課題が山積しております。加えて、教職員の働き方改革など、新たな課題への対応も必要となっておりまして、町長部局と教育委員会の連携がますます重要になると考えております。本町といたしましても、次世代を担う子どもたちが様々な時代の変革に対応できるよう、確かな学力を身につけ、社会に出ても自ら問題解決ができる主体性を育成するとともに、郷土波佐見を誇れるふるさと教育の充実のため、教育

委員会、学校と連携しながら、子どもたちの心身の健全な育成と教育環境の充実を図ってまいりたいと考えております。本日の会議が、本町の教育振興に実りある会議となりますようお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

３．協議事項

福田総務課長

それでは早速でございますが、お手元に配布しております式次第に従いまして、協議事項に入らせていただきます。最初にこの総合教育会議について、改めて内容をご説明いたします。5ページに参考資料として、波佐見町総合教育会議設置要綱を掲載しております。この総合教育会議は、先ほど町長が触れられましたとおり、平成27年4月に施行されました改正地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定に基づき、すべての県と市町村に設置されております。協議事項については、要綱第2条に掲げておりますが、第1号に大綱の策定に関する協議とございます。大綱につきましては、4年度の総合教育会議で策定しておりますので、今後は、基本計画策定時に協議することとしております。本日の議題ではございませんので、ご承知おきいただければと思います。それでは協議事項について、教育委員会から提案、並びに説明がございますので、よろしくお願いいたします。

林田教育次長

（１）児童生徒数の現状及び今後の推移について

皆様、おはようございます。それでは私の方から、3番協議事項(1)、児童生徒数の現状及び今後の推移についてご説明いたします。2ページをお開きください。

波佐見町の全体の人口動態でございますが、近年、出生数の減少が続いております。各小学校、また中学校の児童生徒数は年々減少傾向にあります。小学校で申し上げますと、平成17年と令和7年を比較した場合、16.7%、160人の減となっております。また、平成27年と令和7年の10年間で比較した場合、児童数で約2.8%、23人の減となっております。6年後の令和13年度では、その際は、約21.3%、170人の減になると見込んでおります。東小学校から中央小学校、南小学校をご覧いただければ、年々減少傾向が続いているということがご理解いただけるかと存じます。なお、中学校につきましては、3か年ということもあり、一概に極端に減ったとは見えないところでございます。次に3ページをお開きください。令和元年から令和7年度の地区別の出生数を明記しております。令和5年、6年の合計をご覧いただければ、100人を切っている状況となっております。令和5年が84人、令和6年が90人といった形で、100人を切る推移となっております。また、令和7年も10月31日現在でございますが、出生数が61名という厳しい状況となっております。以上で、(1)の児童生徒数の現状及び今後の推移についての説明を終わります。

（２）今後の教育課題について

福田総務課長　それでは引き続き（２）今後の教育課題について、ご説明いただきます。よろしくお願いいたします。

森田教育長　配布資料の4ページにございます「今後の教育課題について」という部分で、式次第に沿った部分でご説明するための資料でございますので、そちらをご覧いただけると幸いです。協議の時間を確保するためにも、簡潔に述べさせていただきますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。年末に大きなニュースが2本入ってきております。一つ目は、今月19日に中尾皿山、そして、鬼木棚田の文化的な景観が、国の重要文化的景観として答申を受けました。この後選定等の決定が行われると思いますが、長年の念願が叶い、今後の町の観光拠点の発信元として、新たな保存活用を有効に考えながら、進めていければという思いでございます。もう一つは、15日付けで、中学校と焼振興会等々の焼き物関係者の方々が協同で取り組んでおります、焼き物文化体験プログラムが、第18回キャリア教育優良校として、文部科学大臣賞を受賞いたしました。長崎県であわせて波佐見高校も受賞されておりますので、同一市町から中学校、高校のダブル受賞ということで、全国初めてのことであり、高く評価をいただいているところでございます。

また、歴史文化交流館の来館者は10万人まであと161名となっておりますので、今月が12月28日までで、年明けは4日からということですから、カウントダウンがいよいよ始まったところです。当初予定しているペースよりも、かなり早いスピードで来館者が来られており、大変嬉しく思っております。

今年はピース文化祭2025が、国民文化祭として初めて長崎県で開催され、本町では、全国人形芝居フェスティバルや、波佐見

講堂音楽フェスティバル等々を行うことによって、地域発信事業、他の自治体にはない盛り上がりを見せ、県の方からも高い評価をいただいたことは大変嬉しく思っております。

また、6年ぶりの町民大運動会につきましても、大胆なリニューアルをした内容ではございましたけれど、町民の親睦融和が図られた、持続可能な大会になったのではないかと考えており、今後も継続していければと考えております。

今、町長の挨拶の中にもございましたように、ふるさとキャリア教育の推進と、地域活動の維持促進は大きな社会教育委員会の課題であると考えておりますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、資料に基づいて説明をさせていただきます。町の学校施設の改修につきましては、インフラ整備につきましては、長寿命化等の計画に従って行っております。議会でも話題になりました、東小学校の出生数、あるいは児童生徒数の減少から、統廃合については今後研究検討を始めなくてはいけないと考えておりますし、中学校につきましては、校舎の改修についても、その準備は始めていかなくてはならないと考えております。

バリアフリーにつきましては、波佐見町は恐らく県内で最も進んでいる自治体であると考えております。今年度、来年度中に、該当校でございます東・中央・中学校につきましては、階段昇降機をすべて設置し、今年度中に完了する予定でございます。バリアフリートイレも、校舎、体育館についても完了し、スロープも必要な箇所につきましては、一部完了しており、すべて完了する見込みでございます。また、体育館等の空調化についても、中学校が2月末に、小学校は来年度中に教室や体育館等々のLED化も、来年度中にすべて終わる予定になっておりますので、バリアフリー対策、あるいは熱中症対策等々についても、ありがたいご支援の中で、ほぼ今年度、来年度、LEDにつきましては9年度までかかる想定をしておりますが、施策について、早めに取り組んでいくことは大変嬉しく思っておりますし、教育環境の整備については、町の議会の支援の中で行っているところでございます。

通学路の整備は、毎年行っておりますが、横枕2号線の工事が行われております。また、南部線や八並先生のところの部分についても、道路拡張が来年度辺りをめどに完了する予定ですが、懸念しております横枕1号線の50メートル弱の部分が、なかなか前に進んでおりません。徒歩で通学している子どもたち、中学生、そして車という、3つの動きがどうしてもあそこで錯綜しており、実際、中学生が転倒したということも3回続けて発生しておりますので、あそこにつきましては、地主様の方に何とかアクションを起こす必要があると考えております。

学力向上はそこに記載の通りです。なかなか厳しい状況となっており、向上が見られない部分があり、課題としては、要支援・要配慮の子どもが増えてきていると感じていると学校側は考えております。そこがどうしても低学年、中学年のところに影響し、その子どもたちが落ち着かない雰囲気の中で、他の子どもたちへの基礎学力が定着しないままであることが大きく影響したのではないかということと、県の会議の中では、相変わらず授業改善が進んでいない、一斉授業がまだまだ行われている実態であったり、家庭学習の未定着が、長崎県の学力向上が進んでいない大きな2つの原因であると分析されております。保護者の意識の低さについては、本町独自の部分かもしれませんが、波佐見町の場合は、保護者の方の子どもに対する学力について、あまり意識が高くない、といいますか、「何とかなりますよ」とか、「自分がそうでしたから」といった意識の低さが影響しているのではないかと感じているところでございます。そのための対策としては、デジタル機器の活用ということで、特にミライシードを十分に活用しながら、基礎学力の定着あるいは発展的な学習については、自主的な学びができる機器として、あるいはツールとして活用していくような、実際、今週と来月早々に学校ごとに研修会を行っているところでございます。

3番の中学校の部活動の地域移行、地域展開につきましては、協議会を立ち上げて、外部指導者の確保のための予算化も令和5年度から行っております。関係機関、関係者についての説明、あるいは中学校への職員の意

識調査、あるいは中学校との連携を図りながら、令和9年度の改修を目途に今、準備を行っているところでございます。そのためには、県・郡の中体連と情報共有をしながら、県の教育委員会への要望を行っていかなくてはならないと考えているところでございます。

ふるさとキャリア教育の推進は、本町の教育方針の大きな柱の一つになっております。様々なイベント、取り組みを行っているところです。地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用し、波佐見町の発展に自分事として関わることによって、自己のキャリアアップにつなげていくという、「ふるさとキャリア教育」と銘打って指導を行っております。

その他のところです。不登校、いじめ対策は、大きな課題ではございます。本町も小学生の増加がやや気になるところでございます。中学校については、微増あるいは横ばいで、全欠であった子がほぼ週1、2回は登校するようになりましたので、全欠の子は2、3名いる程度に、逆に中学校の方が横ばいで小学校が増加しており、ここの一つの傾向として、町だけではないと思いますが、兄弟あるいは保護者、親が「自分がそうだった」と言ったり、兄、姉がそうだったら弟、妹も不登校、不適合になるという傾向がかなり顕著に現れており、恐らく町の場合は半数以上の家庭、子どもがそのような傾向にあります。理由としましては、「何となく」という部分です。「何となく」学校に行けなくなった、行かなくなったというところと、ゲームやSNSによる昼夜逆転現象、保護者の意識の低さ、そしてもう一つ、これが最も大きいだろうと分析されていますのは、教育機会確保法の制定によって、学校に行かない選択肢が市民権を得たということがとても大きいと考えております。

ICT教育の推進につきましては、セカンドGIGAスクール構想が始まりましたので、一層タブレット等を活用した授業あるいは家庭学習等が、行われていくものと予測しております。ただ、先生方にとっては、アナログによる読み書き、計算、そろばんがやはり学力向上にとても必要であるということで、ハイブリッド的な指導を行っていかなくてはならないことは学校とも共有しております。英語教育の部分で、なかなか話せる中学生に育っていないというところもございますので、今後、オンライン英会話を導入していきたいと考えており、予算計上についても要望しているところでございます。大学の先生による連携につきましては、令和元年度から始めておりますが、先生方、特に小学校の先生方の外国語の授業につきましては、大学教授からもお褒めいただいている現状がございます。人的体制の充実、ここは先ほど申し上げましたように、様々な支援、特別教育支援、学力向上支援、スクールサポートスタッフ、ICT支援、図書司書補助員等々の人的、教育体制の支援につきましては、県内でもあるいは国内で見てもかなり高いレベルにあり、これについては、ぜひ堅持し、教育のまち波佐見の一つの目玉にしていきたいと考えておりますので、今後ともご理解ご支援いただければ幸いです。

子育て世代支援につきましては、これまでも述べておりましたが、保護者等からの要望で最も高いのは、入学準備に関わる補助ということで、小

学生、中学生の保護者につきましては、入学に際してかなりの高額な費用がかかるものですから、そこについて補助ができないかという要望、高校生の保護者からは、通学費の一部補助については、これまでも多くいただいているところでございます。一つ大きな話題としましては、国の方で小学校の給食費の補助が、国が全額持つとなれば、そこが、そのことによって町が実際に小中学生の給食費を全額補助していただいておりますので、そこの部分の有効な運用ができないかと期待しているところでございます。

図書館につきましては、総合文化会館及び町図書館の改修工事検討委員会が先日立ち上がりましたので、委員会の協議に基づきながら、財政と研究を行い、波佐見町の新しいランドマークとなる施設が立ち上がることを期待しております。負のレガシーとなることがないよう、有効活用していくということで、進めてまいりたいと考えております。

PTA支援は、教育委員会でも話題になりますが、保護者の意識の改革と、集いの場といいますか、集まる場と機会を提供していかなくてはならないということと、今は任意団体であるため、参加についても自由意思を尊重されるところがあるのですが、やはり動員をかけて学ばないと衰退していくのではないかという危機感を持っております。

年明けの生涯学習の集いでは、今までは家庭教育講演会を3部作として最後に行っていたのですが、その参加率が非常に悪かったこともあり、今回からは、元に戻して、PTAの家庭教育講演会のみ夜間開催とするようにいたしました。そして動員をかけるよう要請しております。

議会からの要望については、総合運動公園整備について毎回挙がっておりますが、これについても検討委員会を立ち上げるようにしておりますし、最後に高校改革再編、来年度の6月には、県の方針が示されると思います。波佐見高校と川棚高校等、近隣の高校がどのように再編されるのかを注視しながら見ていかなくてはならないと考えております。4ページのレジュメに従って、詳細な資料を配布して説明をさせていただきました。

福田総務課長　ありがとうございました。まず、教育委員会の方からご提案、ご提示がございましたが、その他、教育委員会事務局の方から補足等があればお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。ないようであれば、本日の総合教育会議は、皆様方の自由な意見交換の場となっております。教育委員さんからもこれまでの経過を踏まえて、ご発言がある方については、これからご意見をいただければと思います。

前川町長　項目があまりにも多岐にわたりますので、項目を分けて討論した方が良いかと思います。

福田総務課長　それでは、多岐にわたっておりますので、まずはこの協議事項の（１）児童生徒数の現状及び今後の推移についてご意見をいただきたいと思います。それでは、この件について所感や、今後についてのご意見をいただけ

ればと思います。

前川町長　実は先日、議会におきまして、議員の方から、児童もかなり減ってきているので、そろそろ学校再編についても、議論を進めるべきではないかというご意見を頂戴したところでございます。協議会の中でも議論のところはしていないと回答しましたが、そういったご意見について皆様がどのようなお考えをお持ちかお伺いしたい気持ちがございます。

福田総務課長　この後は自由に意見交換をお願いいたします。

馬場委員　議会の方でもそのような話が出ておりましたし、町長からもそのような話が出るようになりました。理解できないわけではありません。東小学校が一番多かったときに中央小学校に分散するという話も出てきましたし、これは世の中の流れではないかと思います。しかしながら、一時は少人数教育が良いという時代もありました。例えば分校などが非常に優遇された時代もあったわけですが、再編、色々な意味で、少なくなったから統合するというのも良いですが、町の行政もそうでしたね、3町合併が良かったのか悪かったのか、これも今までの一つの課題だと思いますが、私たちがいつも話しているのは、100人までは、まだまだ今の状態で良いのではないかと。1クラスで、特に東小学校は1年生から6年生まで1クラスずつですが、結局、中学校になって一緒になるわけですが、それでも、そのような状況はまだ続けていって良いのではないかという話をさせてもらっています。合併したから良いというのは色々な金銭的な問題や先生の配置などもあると思いますが、やはりここを第一に大切にするという意味では、非常にそういった意味では、少人数の方が取り組みやすいといいますか、その子どもたちを非常に指導しやすいという立場もあるのではないかと思って、私たちの中ではまだそういった話までは持っていっておりません。今この表があったのですが、令和13年度になると相当減ってきます。この時点で、そろそろかなと私は考えているわけですが、あまり再編は急ぐようなものではないのではないかと考えております。

前川町長　町長と議会の中では、他市町の自治体の例を挙げられて、再編にはやはり長期の時間を要するから、波佐見町でもその先を見越して今のうちから議論すべきではないかというご質問でございました。それに対して、教育長の方から答弁をいただいておりますので、同じ繰り返しになりますが、そのとき教育長がどのような答弁をなされたか皆様にご披露いただければと思います。

森田教育長　一つの基準目安としまして、今は馬場委員がおっしゃいましたように、これまでの経緯としましては100名、あるいは複式学級を始めざるを得ないときには、人数だけでいえば、統廃合の研究検討を始めなくてはならないと考えております。ただ、それが100人を切ってからか、切ることを予

想してかという開始時期については、やはり、そのための検討委員会や準備委員会等を立ち上げるためには、やはり2年ないし3年程度は必要なのかなと考えております。ただ、現状的に、東小学校が100名を切ります。中央小学校が300名を切ります。南小学校が270から280を維持していることを考えたときに、今、普通に考えられる統廃合の形としましては、2小1中、東小学校が中央小学校に統廃合されて、南小学校はそのまま単独で残って、2小1中という形が、児童生徒数だけの考え方がいけば、ふさわしいのではないかと考えております。もちろん学校によっては、これを機に小中一貫校というように小学校1校、中学校1校ということも考えられるでしょうし、さらに進んで、義務教育諸学校という形で、小中学校が1つの学校ということも考えられると思いますが、波佐見町の地域性、あるいは地域における学校の拠点等を考えたときには、やはり少なくとも2小1中の方がベターではないかと考えております。そうなったときに、東小学校が中央小学校に統廃合されるときに、ありがたいことに距離的な課題問題はあまりございません。恐らく、そうなれば、徒歩とスクールバス等の運用になっていくと思いますが、大きく時間をかけて統廃合を検討する必要はあまりないのではないかと考えております。その準備検討期間は、一般的に2年ないし3年と言われている時間はそこまでかけなくてもよろしいのではないかと考えておりますし、一番大事なのは、現役の保護者と将来の保護者の方々がどのような思いを持っているかを大事にしながら、粛々と進めていくのがよろしいのではないかと、今のところ考えているところでございます。

福田総務課長　どうぞ自由に御意見をいただければと思います。

冨木委員　この間の町議会の状況を拝見させていただきましたが、統廃合ありきではない、何かこう情報を共有するような、協議する場というのが、近々のうちに必要なのではないかと感じました。あと40年ほど前になりますが、中央小学校が西ノ原から来たときに、かなり教育委員会、町と地域住民の対立といいますか、そういったものがございました。これも、児童生徒を巻き込んでの話合いといいますか、そういったことが結構あったわけですが、そのようなことにならないような、やはり進め方をしていかなければならないのかなというのが一番の狙いであります。

福田総務課長　ありがとうございます。中央小学校の移転問題は、私が役場にちょうど入ったとき、平成2年に私は入庁したのですが、その時分から大きな話題として、記憶に鮮明に残っておりまして、鬼木・井石の方々はかなり役場の方にいらっしゃって、お話をされたとも覚えているところでございます。

馬場委員　教育長もお話しされたように、やはり、これを実行するには、一番保護者の意見が大事ではないかと感じております。教育委員会でずっと長年懸

案事項だった永尾分校の閉校問題は、平成27年に終わりましたので、これは済んだのですが、その次は統廃合問題かなというのをずっと長年この教育委員会で協議をしながらきておりますが、やはり、言われたように、地域の人がどう思っているかというのが一番大事だと思うのです。前回はどちらかというと教育委員会が強引にこちらに移転するという方向でかなり揉めたというのを伺っておりますので、ですから、できるだけ今回はそのような地域の方から声が出てこないとそこをうまくやれないのではないかと考えております。こちらからどうこうとは言えないと思っております。議員さんもそこら辺を考えて言われたと思うのですが、そのような意見が出ているのかどうかというところ、ごく少数意見でそのようなことを言われたのかもしれませんが、そういったところをよくよく考えて、そのような状況になってきたら、すぐにでも、そちらの方に考えを進めていければ良いのではないかと考えております。

森田教育長　議会をご覧になった関係者の方、特に該当地区の方から「正直驚いた」といいますか、そのようなことも聞きました。恐らくそうだろうなと思いながら、同時に確かに資料の中にこれからの出生数、児童生徒数の減少はなかなか避けられないところもあるだろうとは思います。しかし、その方がおっしゃるには、「100人という一つの基準があるのなら、100人を切らないように、地域として、統廃合について、何とかその地域活性化というところをもっと地域の課題として、自分たちがどのように地域づくり、地域の発展性をやっていけば良いか」という課題にして、新たな魅力をつくったり、新たな夢、仕掛けをして、子どもの数を減らさない、あるいは東小学校区に入ってきていただくような、そのような取り組みの自分たちの意識も高めていかなくてはならないのではないか。「ただ減っていることをただ黙って見ているのではなく、減らさない努力、減らさない工夫を、やはり意識として、自分たちの意識として持っていくことも必要ではないか」という意味で、「頑張らなければならない」という思いをいただけたら良いなと広域的に感じました。確かに町全体もそのような人口減少の波にあらゆるところが上がっており、やはり移住定住の促進等々に、やはりみんなで地区挙げて、町を挙げて取り組んでいくという、とてもその気持ちは大事だなと話し合いながら感じたところでした。

冨木委員　100人を切らない状況を作っていくような話が出ましたが、この間の情報から、幸福度がランキングで1位になったという話もありました。そういった中で、今後5年なり10年以内に、東地区を何とか盛り立てるような施策なり、何かこう、町長、ございますでしょうか。

前川町長　なかなか行政が「あれを作るから、これを作る」で人が集まる状況ではないと思うのですよね。やはり今の若い方は生活に便利なところに集まってきていますので、どうしてもこの宿地区が一番人が集まってきていますし、宅地開発もまだまだ宿地区で行われています。そうした場合に東区に

特化して何かやるかと問われれば、今のところ行政では特に今のところ考えてはおりませんが、何らかの産業振興ができれば良いのかなと感じております。しかし、なかなかそのような企業誘致もままならない状況の中では、今の生活の質を上げるとか、そういった施策を何か打っていく必要があると思いますが、その地区に特化したわけではなく、町全体に行き渡ることであり、なかなか地域別の振興策が表立ってあるというのは今のところ何もない現状でございます。

松尾委員　東地区を盛り上げるというよりも、やはり子どもを持つ保護者の目線からすると、学校に通いやすいかどうかというのは、やはり第一条件に入ります。住まいを選ぶ、土地を選ぶときに波佐見の中でどこに入って住むかと思ったときに、学校に通いやすいというのはやはり子どもを持つ方の第一選択肢の中に入ると思うので、宿だったら、中央小学校に近い、中学校に近いというのを考えると、宿が選ばれるのは普通の流れかなと思います。東地区を盛り立てるにはどうするかって思ったときには、中学生を含めて、スクールバス、学校に通うのに困らないというのはどうかなと思います。自転車で通っている子とか、小学生でバスで通っている子もいますが、送迎はしない方が良いという声かけがある中、暗い夜道を子どもたちが、女の子一人で自転車で帰る、徒歩で帰るという姿を見るのは、やはり親としては、通学路が遠いし暗いなと思います。

福田総務課長　結構、東地区の振興策についてお話が及んでおりますが、その辺で何かご提案、ご提言もあればお受けしたいと考えております。

渡邊指導主事　私はよく保護者と面談する機会が多いのですが、地元の方ではない方が町に移住されてきているということもあり、どうして町を選んだのですかとよく聞くことがあります。そのような場合には、「町がとても住みやすい」という声を聞きますし、実際に住んでみて「住みやすいです」という意見もあります。それが何なのかなと考えてきたときに、ある地元の方が、自分が選んだ理由というのは、例えば自分で車を運転しているときに、横断歩道を渡っている子どもをずっと見ていると、渡り終えたときに「ぽっと」お礼を言う子どもがいました。私はそれを見て波佐見町に住もうと決めましたということも言われたことがあります。ですから、学校教育のあり方もとても大事なことではないかと考えることと、例えば、給食費の無償化ということも大きな要因の一つだろうと思います。また、今、松尾委員がおっしゃった、学校に通いやすいという一方、ソフト面を考えて、子どもが学校に楽しんでいくとか、そのような子どもの支援体制ができている部分もとても大きいのではないかと思いますので、やはり学校の教育のありようと、行政のサポートというところは、とても保護者にとっては、選択の一つとして挙げられているのではないかと感じているところでございます。

馬場委員　今言われたように、先ほど幸福度が高い、多分、宿とか折敷瀬に住んでいる人の幸福度が高いという意見を出されたのではないかと思います。やはり辺境の地に住んでいる人は、幸福度が高いとは言えないと思いました。そのようなことで、今回、先ほども少し言われましたが、中尾皿山と鬼木棚田の景観、これを認可されるまでに、色々なことで私も色々と動かせてもらったのですが、やはり今、自治会長会の副自治会長の野口さんと話をする機会があって。野口自治会長さんが張り切って上の9地区をまとめようという話をよくされています。そのような人たちとやはり、教育長が言われたように、結局、そこでどのようにすれば良いのか、例えば委員のご意見も大事だと思うのです。東地区の方にはそのような不便さがあるから、そのようなものをみんなで何とか解決しようという、ところのやはり機運が出てくるともう少しスクールバスを出したりということで、すぐに過ごしやすい、実は中尾もそうですが、タクシーで帰るようになってきました。ものすごく気分的に楽です。そのようなことを考えたときに、やはり子どもたちの登下校の安全はものすごく、親にとっては心配ではないかなというのもありますから。だからそのような機会を通じて、やはり自治会の会長さんたちと町の方たちと一緒に話をする機会をやはり作っていくべきだと特に感じております。景観遺産ももちろんそうですが、それとタイアップして、そのような全体の東地区の流れをやはり作ることが大事ではないかと考えておりますので、ですから今度呼びかけて何かやりましょうという話を私もさせてもらい、野口自治会長も張り切っていらっしゃいますので、その盛り上がりを何かこう、接点を見いだせるようなところができていければ良いのかなと思っておりますので、これが、良い方向に向かうように、景観遺産をもとにしてそれを全体的に広げていくということをやれればどうかなと今思っております。

前川町長　今、児童生徒数の現状と推移ということの中の議論でございますが、松尾委員がおっしゃったように東小学校を対象としたスクールバスの配置は、一つの手段、方法かと思いますし、合併しました東彼杵町がかなりのスクールバスを導入しております。結構、バスがたくさん止まっており、スクールバスとのことでした。かなりの広さがある町ですから、そのようなものは必要かと思いますが、そういった一つの方法かと思いますし、特に中尾の児童を対象として、鬼木までスクールバスが出ていれば中尾の児童も乗車できないのかという話をしましたが。何か色々な制約があるようですが、できないことはないと思うのですが、いかがでしょうか。

林田教育次長　まず児童の登校時間が早くなることや、その調整は出てくるかと存じます。それと、バスへの乗車人数もございますので、全員乗れるかという問題もございます。実は村木郷の方からも、登下校の際、乗車させてほしいという要望が出ております。そのような点では、そこは考える余地はあるかと存じますが、今の段階では少し厳しいというのが本音でございます。

前川町長　私の持論としましては、できない方法よりもできる方法を考えてほしいので、できる方法をよく考えてください。よろしくお願いいたします。

森田教育長　東彼杵町につきましては、ご存知の通り、音琴小学校と大楠小学校が廃校になった部分がまず一つございます。それと、中学生については千綿中学校がなくなったということで、今、2小1中となっております。スクールバスの道については、そのような遠距離通学がやはりかなり増加したということがあり、今、ルール的には、学校から1キロ未満の子どもたちは徒歩、それ以上の子どもたちは、スクールバスというような一つの基準としてはあるようですので、本町でそのような導入は一つのヒントとしてはあるかなと思います。ただ、本町の場合は、耐性の教育という徒歩登校の推奨を長年やってきているところもございますので、そこはなかなか厳しいところもあるかなと。同時に、本町のスクールバスまたはタクシー利用にはそれぞれ理由があり、スクールバスは、分校廃止に伴う遠距離通学の解消というのがスクールバスの利用目的ですので、当然、村木とか、あるいはそこに中尾・井石については校区変更に伴う遠距離ということで、ここは理由があります。今度、例えば皿山とか野々川のようにタクシーを利用している子どもたちは、やはり行き帰りに人家が少ないとか、社会的な不安がある、大人がなかなか見ることができないなどの様々な理由、どちらかというと個人的あるいは地区からの要望を踏まえた部分については、タクシーを利用するという二本立てでやっており、今、村木から来ているのは「行きも帰りもスクールバスにしてくれ」という要望で、村木の元々のスクールバスの利用、永尾分校廃止に伴うスクールバスの運用とは違う形で今要望されておりますので、そこはやはり検討していかないと、村木を認めれば恐らく、他の地区からも対象にしてほしい、この地区をしてほしいと言って、スクールバスが全町となり、あるいは先ほど申し上げたように、例えば1キロ未満については東彼だがそれ以上はスクールバスといった全庁的な流れに発展していく可能性はあるかと思いますので、まずは原理原則の部分と現状と、今、スクールバス等々通学手段の確保ということで、統廃合に対する課題として、解消する一つの手段であれば、大いに検討して良いだろうと思いますし、出た意見の中で、統廃合ありきではなくて、それぞれの活性化だとか、それぞれの課題を共通共有する、あるいは1地域を盛り上げるための意識づけというような意見交換会は、その開催については確かに有効であるなと今感じたところでした。

福田総務課長　先ほど委員さんからございました東地区の運営協議会について触れていただきましたが、井石郷の自治会長さんが東地区の自治会に呼びかけを行って、9地区で何らかの共同体ができないかという話をされています。まだまだ構想段階ですが、今後については、勤労福祉会館を拠点に、月1回、あるいは2、3か月に1回集まって、情報共有をやっていこうという流れがあるようですので、この場でお知らせしておきたいと思います。その他、特に学校の統廃合問題と東地区の振興関係について論議をしておりま

すが、他はございませんか。一旦、(1)についてはこれで示させていただいて、最後に総括的なご質問ということで設けたいと思います。次に、今後の教育課題ということで教育長のペーパーがございましたので、まず大きな学校施設の改修については、教育長の説明あるいは資料に基づいて、ご意見等をいただければと思います。ご自由に発言をお願いいたします。

前川町長　実は今度の高市内閣が補正予算を組んでくれまして、学校のバリアフリー化で何か補助金の話を聞くことになりました。900万円ほどだったと思います。まだ教育長はご存知ないですか。小学校と中学校。中村課長補佐が聞いたときにはLED化の前倒しでの補助だというように聞いておりますが、それは今年度補正ということで、当然繰り越しをしないといけないと思います。

森田教育長　4校の現状、通常教室、特別教室、体育館等と進んでいっていると思いますし、例えば中学校につきましては、通常教室等のLED化も進んでおります。今大きな課題の例えば水銀灯であったり、蛍光灯の生産が中止になっているというところがあるものですから、早期にLED化をやらなくてはならないということで、かなり早い段階から、今年度、7年度、8年度でほぼ終了する予定でした。ところがそこに今、物価高騰と様々な諸事情の中で、一部9年度まで繰り越さなくてはならない案件にはなってきておりますが、今回もその中学校のLEDについてそのような補助の国の動きがございますので、そこら辺も踏まえながら、計画的に7、8、そして9年度に一部という形でLED化については、学校については対処できて、対応できていくのではないかと考えており、これも計画に則って粛々と進めているのが現状であります。他市町はなかなかまだそこまで執行できておらず、水銀灯、蛍光灯の生産中止に伴うLED化は、今後、他の自治体では慌てることにもなるのではないかと考えております。以上です。

福田総務課長　学校施設の改修については、これまで教育委員会はかなり計画的にやられてきたと思いますが、今後の見通しも含めて、委員の皆さんからもご意見を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

森田教育長　昨年度のこの会議で町長にも、どうも町長とも協議をしていかなくてはならないと、やはりその横枕のところを何とか進めていかないと、事故が起こってしまう可能性が大変心配なところがございますので、ここをどのように動かしていけば良いのか、やはりなかなか難しいところかと。あそこが解決すれば、ほぼ通学路については、安全で、ここまで充実した環境整備はないなというぐらいに、私たちも大変安心しますし、逆に言うと今一番危険なゾーンになっている現状がございます。

福田総務課長　私たちもその方については、年齢が比較的近いこともあり存じ上げておりますが、以前の中央小学校の移転の際の経緯と価格の関係について、お

話をされているということを聞いております。なかなかやはり先祖伝来の土地ということで、思いもあるということと、現在お住まいが、関東方面ということもありますので、なかなかその現状については、よく伝わっていないのかなと考えております。建設課の方において、この辺りはアプローチをかけているということは聞いておりますので、粘り強い交渉が必要なのかなということで聞いております。

なかなか厳しい状況にあるという認識はしています。今のところはテーブルに載っていないような状況ということで伺っておりますので、今後、トップセールスなのかどうか分かりませんが、そのようなことも今後かなと考えております。行政側としてお知らせしております。他はございませんでしょうか。学校施設ですのでここに掲げていないものでも構いません。よろしいでしょうか。それでは一旦先に進めさせていただきます。

次に、学力向上についてですが、教育長からお話がございましたが、委員さんそれぞれ、何かご発言があればお願いいたします。

前川町長　学力向上ですが、各学校にスクールサポートなどが配置されており、様々な先生方がいらっしゃいますよね。これは郡内の他校や他自治体と比較してどうなのでしょうか。手厚いのでしょうか。

渡邊指導主事　学力向上に限らず、学校のサポートをしていただく方が、スクールサポートスタッフが各学校に1名ずつで計4名、学力向上及び特別支援の支援員さんが全体で19名、配置されております。また、今、ICTの支援員が町内に2名ずつ入っていただいてサポートをしていただいているところです。他町に比べて、とてもやはり、多い人数が配置されております。時間的にも、支援員さんは8時15分から16時までと、子どもが学校にいる時間は常にサポートをしていただいているので、そこは学校にとってはとてもありがたく、他地区から来た学校の職員にとっては、「こんなところはありません」というようなことをよく伺っております。例えばスクールサポートスタッフが今まで担任がすべきところを少しお手伝いしてくれたり、少し手が届かないところを担っていただきますので、そこは学校にとってはとても貴重な戦力となっているところです。そのような状況です。

前川町長　それではこれとは別に特別教育支援員というのはまた別の配置になるのでしょうか。

渡邊指導主事　特別支援教育支援員と学力向上支援員を合わせて19名配置しておりますので、その支援については、各学級に入って、学習に集中できなかったり、学力的に少し理解が遅い子どもに対し、サポートしていくという形をしておりますので、その方々も含めて、支援体制を整えているところでございます。

福田総務課長　まとめると、スクールサポートスタッフが4名、支援員が19名、ICT支援

員が2名の計25名ということです。他に、学力向上全般の話が出ましたが、いかがでしょうか。

松尾委員　支援体制としてはすごく手厚いと思います。客観的に見ても、人数、ソーシャルワーカーさんも合わせて、子どもたちを安心して預けられる学校教育ができるのが波佐見町だと思います。ただ、それがやはり学力につながらず、学力向上につながるというのは、充実した環境を保護者の方が理解していない。保護者の方には全く伝わっておらず、あって当たり前というか、それに甘んじているわけではないのですが、甘んじていることにも気づいていないのではないかと感じているところです。やはり保護者の意識の低さというのが、言って良いのかどうか分かりませんが、そこにどのようにアプローチしたら良いのかというのが、ずっと教育委員会のテーマであって、少し二極化しているので、すごく熱心な保護者さんももちろんいらっしゃるのですが、そうではない方の意見が大きく影響しているというのが、恐らく町内の保護者さん、PTAの皆さんの今の現状ではないかと思います。だから、自治会のことなど特に、皆さん、お年寄りまで含めて、各年代、かなり熱心な自治体だと思うのですが、その方たちとこの公的な役場の関係者と、今現役の保護者、PTAの現役世代、この壁を何とか突破する方法を町長さんに考えてほしいです。

福田総務課長　今、保護者に響いていない、あるいは、意識が高い人と低い人が二極化しているというような意見が出たようでございますが、他の委員さんはいかがでしょうか。

馬場委員　私たちもそう思います。子どもがものすごく多様化しています。昔は一人の先生で40人も50人も教えていただいていましたが、今は20人から30人以内が1クラスです。それでも対応しきれないぐらいの子どもの多様化が今、見られるのではないかと思います。それに伴い学力の方も非常にグレーゾーンといいますか、そのような子どもがものすごく今多いと思うんですよね。やはり対応が本当に難しい時代になってきているなと感じております。そのような中で、これだけの町からの支援体制ができているのに、本当に学力が向上しない、やはりそれに追いついていないというのが現状ではないかと思います。やはりその意識の低さというのは、子どもたちも、親御さんも非常にこれは関係ありますし、もっと忙しい中でもやはり自分の子どもにはもう少し目をかけてほしいなと思うわけです。学校で宿題が出てもそれは子ども任せにして、それを見ない、タブレットを持っていっても、それも見ないというような人がやはり多いのではないか、やはりそのような子どもに対しては、任せきりというよりも、あまりその学力には関知していない人が非常に多いのかなと感じております。そこら辺をもう少しこう、感じてほしいなと思うのです。一つは例えば給食費が無償化になった、高校の授業料が無償になった、今の大人たち、この子育てをする親御さんたちは、やはりものすごく援助されていることに慣れている

んですよね。私たちのときは何もなかったわけで実際。子どもの兄弟がいるのに1万円ぐらいもらったぐらいで本当ほとんどなかったのに、色々な面で補助をされて当たり前になってしまったような時代だから。やはり何もないときのほうがみんな競い合って色々な知恵を出し合ったりすることが多いのですが、あまりにも優遇されてしまうと、考えなくなってしまうというのが今の現状ではないかと思っております。やはり支援体制もある程度考えてやらないと、あまり何もかも、他の地区が無償にしたから今度うちもするというような形ではなく、中には、給食費が半分もらえる、半分は払ってくださいという市町村もあったみたいです。だからそのような形を、やはり少し考えてもらわないと、そのようなことも必要かなというのもあります。ですから、一概には言えませんが、やはり子どもに対しての無関心さが非常に多いのかなと思っております。以上です。

森田教育長　このことについては教育委員会の中でも、あるいは学校、あるいは学力向上推進委員会等々でも話題になっております。先月の教育委員会のときにも報告いたしましたが、学力向上推進委員会を月1回、あるいは2か月に1回開催している中で、各学校の研究主任といわれる方々に集まっていただいている会議なのですが、その中の前回のテーマは、「なぜ町の子どもたちの学力が低いのか」という意見交換会でした。出てきた結論に「保護者の意識の低さ」というのがありました。例えば、これはうちの委員さんからもございましたが、「うちの子は全然宿題も勉強もしないとですよ」と笑いながら言っている姿を、やはりそれを学校も感じていらっしゃいます。自分の子どもさんが、あまり高い点数を取っていなくても、あるいは宿題をやっていなくても、笑ってしまって、「何とかしなくてはいけない」というところの意識がやはり根底にあるのではないかということと同時に、学校側の職員から言えば、今委員さんがおっしゃいましたように、どうしてもやはり支援を要する子どもたちが、やはりかなり増えてきたなと実感として学校は持っております。文科省が発表した要支援、軽度発達障害という一つのジャンルでいったときには、6%から8%だった割合が今10%まで上がってきております。ところが、そのような先天的なものではなくて、後天的、すなわち家庭でのしつけの様子だとか養育の状況によって、なかなか落ち着かない子どもたちの割合がどんどん増えてきており、学校の職員の意識とすれば、支援を要する、あるいは支援を実際に行わなくてはならない子どもたちの割合は20%から25%であるといいます。そこが1年生の後半から2年生、3年生の前半のときに、その子が学級にいると、その子の様子にみんながつられていってしまいますので、どうしてもざわざわしていく中で、基礎学力の定着に一番大事といわれる2年生と3年生の時期に基礎学力がついていない実態が現状的にあるのではないかと分析されております。しかしこれは現状であって、それをどう解決していくか、打開するかが、私たち教員、学校に求められていることではないですかということで、その具体的な手立てを考えていってください、成果を上げてくださいという話はしています。現状ではそうなのだろうなとは思ってお

りますが、20年ぐらい前に、文科省の学力向上フロンティア事業を受けていた頃の**町内の4校の学校の学力向上の成績は県でトップでした。ということは、やはり働きかけということもあるのではないかと考えておりますので、学校も含めて、保護者の方にも含めてそのような啓発は、やはり今後、強力に行っていかなくてはならないと感じたところでした。

山下委員　学力向上については、学校訪問を見る限り、学校の先生方は本当に一生懸命子どもたちに、教えていらっしゃると思います。私たちが色々申し上げることはなく、本当に、ここまで丁寧な言葉でお話をされているのかとか、きれいな字で書かれているとか、そういったのはよく感じております。ただ、本当にここに書いてあるように「保護者の意識の低さ」とありますが、これを何とかしないといけないというところで、学校のPTAの方たちが、色々な自分たちで研修会を開いたりとか、どうしたら、学力が向上できるかとか、家庭がうまくいくかとか、そういった何かこう、学校側から一方的な「こういうのは直しませんか」ではなく、「自分たちがこういうのをしましょうか」というような、PTAの役員さんたちが出てきたら良いかなと思います。なので、そういったサポートをこちらから何か「こういう何かこう話し合いの場を作るからちょっと寄ってみて話そうか」とか、そういうコミュニティーのような地区で集まったりとか、そういう場が設けられたら、もう少しこう、保護者の意識を高める何かを少し考えていかなければならないのかなと感じたところです。

松尾委員　学力向上に直接つながるかどうかは分かりませんが、今、あまり順位をつけない、誰が1番、誰が2番か、1番2番をつけないのですが、それをなるべく積極的に学力だけではなく、例えば、出席率が高いから何年何組でした、というような細かいことに1番2番をつけると競争する力がつくかなと思ったら、この間、波佐見町内で歩数の競争をしたり、見る限り、やはりみんな、2番目に1番が良いな、大人を、今一番が良いんだなというのを皆さん結構一生懸命、来ていますと、やはり勝ちたいというのがあるので、学力だけではないことで、ちょうど、各小学校で、どのようなものが良いかというのを子どもたちに聞いてみて、どのような競争をしたら楽しいか、1番になりたいか。縄跳び大会でも何でも良いと思うのですが、卒業するまでに学年1学年の1年の中で、このクラスで1回は何かの1番というのを何かすると少し競争の意欲が湧くかなと今少しだけひらめきました。

冨木委員　この間あるポスターを見たことがありまして、町子育て5か条というのを、これ数年前町が作られたのかなと思います。「かわいくば五つ教えて三つ褒め、二つ叱って良き人となせ」という二宮さんの言葉も書いてありましたが、五つですので「波佐見っ子親の愛情たっぷりと」「爽やかに挨拶交わせば心通う」「磨き変えれば子どもが伸びる」「積み重ねた日々の努力が未来を開く」「心は日々の行いで取り組まれると」。「地域で子育てみんなの宝」というようなことがずっと書いてあるのですが、この中に

先ほど言われたような、家庭学習、毎日の積み重ねというようなこともありましたし、前回教育委員会の中でも、スマホの時間制限という話もしましたが、こういったところ、いつでもどこでも可視化できる環境づくり、家庭の中に、一度ポスターやチラシを作って、子どもがいる家庭いない家庭すべてが子どもを育てる環境にあるということを、訴えるような、何らかの施策ができないかなと少し思いました。いかがでしょうか。

福田総務課長　まず、松尾委員さんから、競争する力、そういった環境も、今後必要ではないかという意見。委員さんからは、やはりそのような積み重ねが可視化できるような環境、それを踏まえて、家庭への働きかけ、そのようなご提言がありましたが、教育長、また渡邊指導主事から何かご意見があればお願いいたします。

森田教育長　松尾委員さんの部分の競争することと社会に出れば当然競争社会になっていくものだと思います。ただ学校の部分は、どうしても配慮的なところがありますので、競争に適さないというような領域といいますか、項目が出てくるところもあると思いますが、今おっしゃったように、みんなでそのような条件整備ができて、スタートラインに立てるような部分があれば面白い取り組みとして、やはりやっていくことが必要であろうなと考えております。富木委員さんの部分についても、「子育て5箇条」も随分前から実施されてはいるのですが、やはりだんだんと形骸化していき、意識としてとても低くなってきているのかなと。先月、町村教育長会議で、町村会で大分県玖珠町に行きました。視察に、この2つの目的の一つが、「学びの多様化学校」の実践の状況と、「コミュニティースクール」の充実、ここは全国的にも先進的な有名なところでしたので、そのコミュニティースクールのところ、共同会議のところをわざわざ夜7時から、私のために開いていただきまして、例えば「学力向上」なんとか部会、なんとか部会、なんとか部会と3つの部会に分かれていて、中学校一つの中学校の学力向上、コミュニティースクールでの話し合いが行われていました。その一つの中に「子どもたちの学力をどう伸ばすことができるか」ということを自分たちの話題にして、自分たちでどのような取り組みをやっていきましょうというところの話が上がっていた場面をちょうど見ることができましたので、おっしゃったように学校だけが一方的にアクションを起こすのではなく、保護者側から、あるいはそこに地域の協力もあるかもしれませんが、自分事としてやはりアプローチをもう一度自分たちがやはり仕掛けていくというような意識づけと、取り組みが必要なのだろうなと今、委員の皆様のご意見をお聞きしながら改めて玖珠町の取り組みについて再確認したところです。その内容については、先日行われた校長会でも資料を配布させていただいておりますので、今後、保護者に、家庭ぐるみ、地域ぐるみでの学力向上のための意識の変革、そして実践の変革も、行っていかなくてはならないと今改めて強く思わせていただきました。ありがとうございました。

福田総務課長　それでは、少し時間も過ぎてまいりましたので、3番の中学校部活動の地域移行、地域展開について、教育長からも説明がございましたが、それについて、委員さん、または町長からも何かご意見をいただければと思います。

前川町長　なかなか今この地域移行に対して難しい問題が色々あるかと思いますが、例えば中体連が学校単位での参加が難しくなってきたという問題もありましょうし、この間の折敷瀬郷の自治会長の*会長さんがお見えになって、野球そのものが、クラブチームに行って、チームさえ作れない、学校単位で作れないという状況の中、どうしたものかなと、時代の流れなのかということでなかなか私は答弁ができませんでしたが、そのようなちょうど移行期の苦しさと考え方の転換という難しい時期なのかなという思いで皆様がどのように考えていらっしゃるのか、考え方、受け方をご披露いただければと思います。

馬場委員

福田総務課長　地域移行に移行した部活動あるいはまだ移行していない部活動があると思いますが、教育長からそのあたりをお願いいたします。

森田教育長　現状、元々は、6年度、7年度、今年度末をもって、休日、平日の地域移行を進めていきたいと考えておりました。現段階で地域移行クラブ化しているのはサッカー部と柔道部になります。他の部は今検討中ということで、この検討がなかなかやはり進まない状況です。町はある程度形が出来上がっているのですが、郡内、県内、国内の動きが予想以上に進んでいないということで、今まで8年度末を、まずは休日の地域移行を完了するように。9年度以降、平日の地域移行について進めるようにという文部科学省からスポーツ庁からの指示があったのですが、それが6年後、13年度末をもってそのような目標で進めていきなさいということに変わっていっているのはなぜかという部分のところで、やはり特に島部、郡部、小さな市町においてのこのあり方がとても難しいというのが予想以上だったということで、なかなか進んでおりません。ただし、各市町の大きさや現状によって工夫がなされているところもあるかと考えておりますので、本町では、今、確かに少子化や、様々なクラブの方に行っている子どもたちもおります。私たちの原理原則としましては、子どもたちの「やりたい」を確保するのが大原則ですので、「やりたい」をどこで実現するかは、様々、今段階で申し上げると、部活動かもしれないし、クラブかもしれないし、それはではないかもしれないし、ということもあるだろうとは思いますけれど、子どもたちの「やりたい」を保障するために、地域の大人が知恵を出し合い、まとまっていくという考え方が一番大事だろうと考えております。ですので、今段階の現状としましては、粛々と関係各位への説明、保護者への説明、職員の意向調査、何よりも大切なのが、もう一つの大きな柱である先生方の働き方改革というのも大きな柱にあるものですから、先

生方の意識、意向を十分に精査しながら、その部分をクリアしていかなくてはならないところもございますし、子どもたちや保護者の意向も大事にしながら行っているところですので、歩みは遅いかもしれませんし、試行錯誤の繰り返しかもしれませんけれど、現段階では、趣旨に則って目標を定めて行われているのではないかと考えております。今後は、町長がおっしゃいましたように、郡予選のあり方とか、県中体連や全国中体連へのつながり等々については、私たちだけでは判断決定できませんので、郡中体連事務局や県中体連事務局の方に、積極的に働きかけを今行っているところです。8年度までは、今の部活動で予選をする、クラブで予選をするというやり方は8年度までは続けるということが今県で決められており、私たちはそれを統一してくださいという、昔の以前の郡中総体に戻してくださいということを今話しているところです。だから部活動、クラブの子どもも一緒に戦って、郡代表として県に上がっていくという、昔のやり方に戻してくれということを今話しているところです。

野球で申し上げれば、中学校野球部、今、町内近隣にあるのが、佐世保というチームがあります。ここにかなりの子どもたちが中学校からも入っております。現在、東彼杵中学校と川棚中学校の合併野球部があります。郡の予選では、東彼杵中学校、川棚中学校の合併チームと中学校野球部が戦い、県中体連の郡の代表としては、今県に行っている状況です。はクラブの大会の予選に出て、そこで勝ち上がってクラブの代表として県に上がってきて、県大会で戦っている状況になっています。今、が、ここ1、2年の大会はすべてが今優勝しております。中学校が2番、3番ということで、そのような状況になっても、その中で、もし子どもたちが入りたいというのはそれはそれで選択肢の広がりですから、それは認めていく必要があると考えております。そのような現状、サッカー部さんは東彼杵中学校も、川棚中学校もサッカー部はありません。合同部もありません。ですから、サッカー部があるのは波佐見中学校のサッカークラブだけです。ですから今川棚中学校の子どもがここに入ってきております。サッカークラブさんは、県北地区のクラブ地区予選に出て、そこで勝ち上がって県大会に行っているという形で、今年度も勝ち上がって県大会には行きました。だからこのようなスタイルもあるし、吹奏楽のように、今現在、3つの中学校の子どもたちが集まって、コンクールやコンテストに出ているというようなやり方もありますから、様々なやり方があるものですから、今そこを精査しながら、国や県の動きも精査しながら、波佐見町の子どもたちの「やりたい」をどう確保するかは、研究検討を続けているところですし、今のところは、波佐見町のやり方については、県も高く評価し、そのやり方で進めてくださいということで背中を押していただいている現状であります。

山下委員　部活動の地域移行ということで、前年度は指導者が不足といいますか、なかなか見つからないということを伺っていたのですが、そこでキヤノンさんの方にお話をというような話もあったようですが、その後、部活動の指導についてはどのような感じになっているのか教えていただきたいで

す。

森田教育長　部活動の外部指導者の確保については、やはり大変厳しいところがございます。本町としましては、スポーツ協会、あるいはスポーツ少年団、そしてサークル活動等で行われている方々等にも協力依頼の説明会を行っております。近隣でいいますと、一番多い状態であるキヤノンさんの方にも出向いていき、社員の方でそのような指導に関わることが可能な方はいらっしゃいませんかというような、お知らせと啓発を兼ねた協力依頼を行いました。先ほど話題にしました通り、今後中学校の先生方が関わらなくなる部活動またはクラブが出てくることが予想されますので、そこについては、さらに積極的に指導者の確保については進めていかなくてはならないと考えております。現状では指導者がいなくて運営指導ができませんということはございません。ただ、今後はそのようなことが、先生方の関わり方が減れば、当然その部分の補填は必要となると思いますので、一層、外部指導者の確保は大きな課題になっていくものと考えておりますが、先ほど令和5年度から外部指導者の謝金に係る予算については、本町、予算計上しておりますので、今後その状況によってはまた見直しが必要となるかもしれませんが、現状はそのようなところでございます。

福田総務課長　それでは、次に行きたいと思います。ふるさとキャリア教育の関係と、その他をまとめて、今後少し話をさせていただければと思います。ふるさと教育については、先ほど教育長から詳しく説明があったと思います。一方でその他について、不登校、いじめ対策ということでもございました。経過もあったようでございますが、その辺りで気になることがあれば、それぞれ教育委員さんの方からご発言、また町長からご質問があればお願いいたします。

前川町長　ふるさと教育についてですが、南小学校の取り組みが非常に素晴らしいなと、私は個人的に感じておりますが、まだ実際に行ったことはなく、情報だけなのですが。これらの評価はもう少し、例えば今後、今回の学校が表彰を受けておりますが、南小学校の取り組みは今まで何か評価されたことはあるのでしょうか。

森田教育長　小学生のキャリア、インターンという取り組みは、恐らく全国的にも珍しいものと思います。小学校のキャリア教育は、一般的には6年生または5・6年生を対象とした職業体験的な活動を行うのが一般的ですが、南小学校は数年間、約10年近くになると思いますが、子どもたちが主体的に関わる部分の取り組みをベースにしながら、東彼杵商工会、地域の方々が主導する形に連携した取り組みができたらということで始められた取り組みで、日曜日に全学年の子どもたちが保護者参加型で行っているのはとても特色があり、これは全国的にも注目をいただいている取り組みでございます。実は今回、キャリア教育の優良校については、この中学校の焼き物体

験プログラムと南小学校の「わくわくワークデイ」を推薦いたしました。同時に、今、県の担当参事が、当時の南小学校の教頭でしたので、よく知っておりますので、「2つ挙げたい」と申し上げたところ、「すみません、1つでお願いします」ということだったので、「分かりました。今年は中学校で、来年は南小学校を出します」と伝えているところでございます。

福田総務課長　南小学校のわくわくワークデイでの取り組みについてご紹介がありましたが、その他の学校の取り組みで何かご紹介できるものがあればご発言されても構いません。よろしくお願いいたします。

その他のほうも含めてということでございますが、不登校いじめ対策、ICTの関係とか、英語教育ということになっております。最後に、話がございましたが、図書館機能の充実ということも現在動いているようでございますので、そのあたりで何か説明等があればお願いいたします。

前川町長　図書館機能の充実、それから総合運動公園の設置について、これらは実は議会の方から要望書を町長宛に頂いております。本来から私は図書館の機能充実が必要だと考えておりました。やはり以前も申したかと思うのですが、これまで一番心に残っているのが、体育の先生が「体の栄養は食事と、心の栄養は読書」と言われたことがずっと心に残っています。本当に図書館機能の充実は必要だという思いがありましたので、現在役場の中で、有識者の意見も入れながら、整備に向けての準備をスタートしております。あわせて、基本設計、実施設計の予算も議会の方でも承認をいただいておりますので、確実にこれは進んでまいります。あとは総合運動公園整備に関しまして、現在内部の担当者あるいはそういった有志といいますか、検討会で色々な視察をしながら、情報収集を行いまして、これを作るか作らないかは別としまして、まず財政規模、うちの財政規模なり、今後人口減少の中において果たして維持できるのかとか、そういったことも考えて、整理すべき検討すべき問題と捉えております。そういったところでの進捗状況を皆様にはお知らせしておきたいと思います。

馬場委員　国の方針で、給食無償化というものが、出されたきだと思うのですが、教育委員会でも毎年いつもお願いをしております。小学校に入る時、中学校に入るときのやはりそのような支援の金額が、非常に高額になるものですから、そのような対策ができないかなということで、できましたらその給食の無償化が国から出てくるのであれば、今まで出した町の予算を少しそちらに回していただけないかと強く要望したいと考えております。やはり他の色々な補助金があると思うのですが、これらすべてに関係あるところは、そのようにして、今後子どもたちが入ってくるときもそのような施策もあるよということをまた町外にも言うことができたら、また移住をしてくる人も増えてくるのではないかと思いまして、できましたら入学の支援金、助成金を支給するようなことを考えていただければ非常にありがた

いと考えております。

前川町長　ご要望として、お聞きしたいと思います。確かにおっしゃる通り、確かに入学につきましてもかなり高額になっています。ランドセルも10万円近くするのですかね。ただ一部、「おじいちゃん、おばあちゃんの楽しみを奪わないでくれ」というご意見もいただいております。おっしゃる通り、給食費が、今の情報によりますと1人当たり月額5,200円の助成が見込まれます。私は給食の無償化を2年前から実施したわけですが、ある程度このような流れになるのかなという予測のもと実施した次第でございます。いつまでも単独では厳しいなという状況がございました。6,000万円ぐらいの予算ですので、今回小学校だけですので4,000万円ぐらいかな、が減ってくるのかな、対象助成いただけるのかなという思いでございますが、実は、直接ふるさと納税を充当しているわけではないのですが、基本的にはふるさと納税に頼っているところもございました。現状申し上げますと、ふるさと納税が今の状況でいいますと、予算計上が17億円ですが、まだ原課には確認しておりませんが、やはり10月のポイント制がなくなって以降、極端に減っていますね。昨年の今日、今年の10月以降の比較を見たのですが、3分の1、4分の1になっています。ただし、10月は驚くほど増えております。トータル的な着地がどのあたりなのかというと昨年が18億円で落ち着きましたが、本年度、まだ財政との確認はできておりませんが、12億円いけば良いのかなと私は個人的に考えております。ただ、今からが書き入れ時です。今から年末にかけてぐっと、驚くほど混雑するのですが、そのような状況の中で、やはり「あれもこれも」という支援は今少し厳しいのかなと。あれかこれかの支援となってくると思うのですよね。その中で、有効な手段となれば、やはりそのような支援、入学支援というのは、とるべきかと思いますが、これも全体的な財政状況を見ながら判断してまいりたいと考えております。

福田総務課長　例えばですが、教育委員会では、入学祝い金、どのくらいの金額を想定されているのですか。

森田教育長　小学校は5万円、1人当たり、中学校は7万円と考えて、これまでも予算要求の中では計上させていただいております。全国平均ではやはり、小学校でも10万、中学校で10万円強、高校生は15万円という形になっておりますので、全額とまではいかないけれどかなりの金額です。これにつきましてはやはり、保護者等々の要望がございましたので、移住定住の促進への啓発も含めまして、今申し上げたように、1人当たり小学校が5万円の130人分、中学校が7万円の130人分という、入学する際に保護者の負担を軽減していけば、例えばこのような取り組み、東彼杵町さんが今やっていますが、例えば大村市さんは一部制服の支援、島原市さんは、ランドセルに代わるリュックの支援といったところを行っているようなところがありますので、そこあたりがかえって県内21の自治体の3分の1、4分の1程度の自治

体が補助支援を行っているのが、現状ではないかと思っております。様々な給食費、教材費の一部、教材費への支援などがあると思いますが、必ずただ馬場委員さんがおっしゃったように、昔の保護者の方と、今の保護者が「当たり前」という感覚ではなくてというところの感覚的には、どの支援が良いかなと思ったときには、やはり高額で誰もが負担をする入学にかかる準備は、やはり補助をいただければ大変保護者は助かるのではないかと思っております。

前川町長　この入学支援あたりも大事ですし、今のいわゆる準要保護関係でしょうか。関連の措置費が今かなり増えていますよね。各学校、何百万円単位で増えているのではないでしょうか。今予算書を持ってきていないので正確ではありませんが、そのような支援もやはりこう、合わせて全体的に考えることが必要なのかなと今思っております。それと直接学校教育と関係ないのですが、今の障害児の通所支援といいますか、それが今ものすごく増えていまして、まさに障害者総合支援になっているのですが、何というか、学童保育に代わって、そちらの方に何か少し発達障害があるからという感じで、今何も基準がないです。そちらの方に預けられる関係でも、毎年何千万円単位で予算が増えています。そのようなことも考えて、全体的なバランスも必要ですが、そこはある程度一定の線引きをしてほしいということを国に要望しているのですが、非常に今、難しい問題がたくさんございますので、全体的には包括的に捉えてご支援はしていかなくてはならないと考えております。

福田総務課長　障害者通所支援については補正で今回900万円計上したという状況でもあるので、結構やはりニーズはどんどん増えているかと思います。まず、それではかなり時間も経過してまいりましたので、言い残したこと、あるいは総括的なご質問、ご提言をお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。情報提供でよろしいでしょうか。

前川町長　ここに横断幕を掲げておりますが、九文高校に行っております、川平君と立石君が、全国サッカー選手権に晴れて出場することになっております。29日に試合があり、川崎の等々力スタジアムでしょうか、もしお時間があられましたら、テレビでも放送されますのでご視聴いただければと思います。それからあわせて同学年の協和郷の池田君がJリーグのサガン鳥栖に選手として入団されるということで、トップチームで今までアンダー18でも入っていますし、サガン鳥栖のユース所属だったと記憶しております。今日ちょうど入団報告で町長室にいらっしゃる予定となっておりますので、情報として皆様にお知らせいたします。川平君に聞くと、「鬼木郷のグラウンドを芝生化してくれたおかげです」と言っておりました。ちょうど子どもたちが一緒になって、鬼木郷グラウンドを芝生でちょうど小学校のときだったと思いますが、池田君も来て一緒に遊んでいたのをよく覚えております。そのような子どもがプロになっていくのだなというような

考え方がございます。ご披露させていただきました。

福田総務課長　ありがとうございます。その他はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。本日は活発なご意見をいただきましてありがとうございます。以上で協議事項は終了となりますが、今後、この場で意見交換した内容は、町長部局、そして教育委員会が共通認識として、本町の教育行政に当たっていくこととなります。今後、様々な機会をとらえて、また意見交換の場を設けていきたいと考えておりますので、教育委員会定例会の中でもご提言をいただければと思います。あわせて、町長が冒頭申されましたとおり、新年度の予算編成も進んでおりますので、今日いただいたご意見は、町長査定等でも十分に反映されるものと思っております。本日は誠にありがとうございました。そこで最後に、閉会に当たり、森田教育長よりご挨拶を申し上げます。

森田教育長　改めてお疲れ様でした。本町の現状等々、意見交換、あるいは情報交換できたことを大変有意義で嬉しく思っております。ありがとうございました。例えば、支援体制などの教育環境あるいは教育諸条件の整備、ふるさとキャリア教育の充実など、教育のまちとして高く評価されている反面、やはり学力の向上、あるいは安定化には不登校などを解決しなくてはならない課題があるのも現実であります。教育は一朝一夕で結果が出るものではないというのも、これは紛れもない事実であり真実であると思っております。ただ、費用対効果という予算的な面から言えば、そこにも成果を出さなくてはならないという予算編成上の事実といいますか真実もきっとあると思います。この相反する事実と真摯に向き合ってクリアしていくことが、教育委員会、保護者、地域、そして学校の何よりの責務であろうと考えております。子育て、子どもたちへの投資は、まちづくりへの投資であり、未来への投資だと強く思っておりますので、今後とも町長以下関係部課、そして、関係町内外の関係者、関係団体の皆様方のご支援、ご協力を賜りながら、ますます教育のまちの実現に向けて努力していきたいと思っておりますので、どうぞご支援方よろしくお願い申し上げ、本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。

福田総務課長　以上をもちまして、波佐見町総合教育会議を終了いたします。ご協力ありがとうございました。